

平成24年度奈良県学力向上フォーラム開催要項

1 趣 旨

全国学力・学習状況調査における本県の状況と課題を踏まえた改善の方向性及び学力向上実践研究推進校における研究成果について周知を図るとともに、実践発表及び協議、講演を通して本県の学校教育の質の向上を図る。

2 内 容

全国学力・学習状況調査の分析結果から、課題解決への道筋をさぐるとともに、学力向上実践研究推進校の学力向上に向けた取組や成果について実践発表及び協議を行う。

3 期日及び会場

平成25年2月7日(木) 県立教育研究所
(磯城郡田原本町秦庄22 - 1 TEL 0744-33-8900)

4 日 程

13:30～13:40 開会行事

13:45～14:00 報告

「全国学力・学習状況調査の調査結果の活用状況と課題解決への道筋」

県教育委員会事務局学校教育課 指導主事 椿本 剛也

14:00～15:00 学力向上実践研究推進校による実践発表

「ステップアップの学力保障」

～わかる授業の基礎づくり～

発表者 御所市立秋津小学校 内山 努

「一人一人が『わかった』『できた』を実感できる授業を目指して」

～算数科の授業を通して～

発表者 十津川村立西川第二小学校 稲田 学

15:15～15:50 協議

「学力向上を目指した実践」

15:50～16:20 指導講評

奈良教育大学 教授 重松 敬一

16:20～16:30 閉会行事

5 参加対象者

県内小学校、中学校、中等教育学校前期課程、特別支援学校小・中学部教員及び市町村教育委員会指導主事等

平成24年度 奈良県学力向上フォーラムの概要

日 時：平成25年2月7日（木）13：30～
場 所：県立教育研究所 大講座室
参加者：教員、教育関係者 約200名

- 1 報告「全国学力・学習状況調査の調査結果の活用状況と課題解決への道筋」
奈良県における5年間の正答率の推移、質問紙調査における学習に対する意識や言語活動、調査結果の活用に関する設問への回答より
 - ・効果的な授業研修に向けての取組例
 - ・家庭・地域との連携の取組例
 - ・授業改善に向けた取組例
 - ・調査問題の活用例

- 2 御所市立秋津小学校の実践報告

「ステップアップの学力保障」～わかる授業の基礎づくり～
学習態度（自尊感情）を高めることをねらいとして

- ・人間関係づくりのためのSST（ソーシャルスキルトレーニング）
- ・児童の実態把握のためのQ-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）

学習環境を整えることをねらいとして

- ・教室掲示の工夫
- ・学習ルール統一

授業力の向上をねらいとして

- ・全教員による公開授業、研究協議
- ・外部講師の招聘



- 3 十津川村立西川第二小学校の実践報告

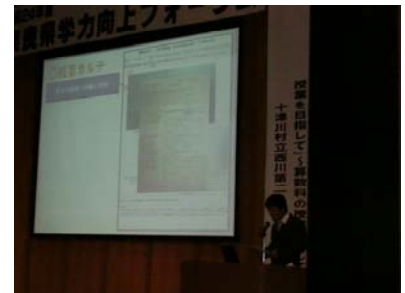
「一人一人が『わかった』『できた』を実感できる授業を目指して」～算数科の授業を通して～
全教員による研究授業、研究協議

- ・各教員が年間2回、研究授業を実施
- ・ビデオ撮影した授業の映像をもとに研究協議

授業カルテ

- ・板書、児童のノートの画像データ化
- ・授業改善に活用

下校会での1分間スピーチ



- 4 協議

「学力向上を目指した実践」

コーディネーター 重松敬一 奈良教育大学教授

内山 努 御所市立秋津小学校教諭

稲田 学 十津川村立西川第二小学校講師

加護公美 上北山村立上北山小学校教諭

樁本剛也 県教育委員会学校教育課指導主事

参加者に実践報告への質問や協議したい内容等についてアンケートをとり、それをもとに協議が行われた。

協議の内容

- ・教室掲示の在り方について
- ・Q-Uや授業カルテの活用方法について
- ・研究主題の焦点化について
- ・学力向上のための具体的な方策について

Q-U等を通して、学級の人間関係を明らかにし、その改善を図ること、子どもの実態や課題に応じて、教室掲示をシンプルにし、児童の授業への集中力を高めることなどは有効である。

全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえて自校の課題を明らかにするとともに、学力等の実態や成果指標を数値化し、成果を可視化することが重要である。

指導講評 重松敬一 奈良教育大学教授

学校は、子どもが目標とすべき学びのステップを具体的につくることで、分かる楽しさや学習する魅力を味わえるようにする。また、教員は、子どもの発言をうまくコーディネートし、発表、話し合い、他者への説明などを通して、思考力・判断力・表現力を高める。こうした取組の重要性が報告から明らかになった。

本フォーラムにおける情報や課題を共有し、各学校で魅力ある授業の実践に向けて授業改善を図り、学力向上につなげることが大切である。

